

組 織, 情 報, そ の 他

(1) 沿革

昭和22年林政統一による機構改革に伴い、林業試験研究機関を整備することになり、同年4月大阪営林局内の試験調査部門を編成替のうえ農林省林業試験場大阪支場として局内に併置された。

関西支場

- 昭和25. 4 京都市東山区七条大和大路に大阪支場京都分室設置さる
- 昭和27. 7 京都分室を廃止し、そのあとに支場を移転し京都支場と名称を改む
- 昭和28. 2 新たに伏見区桃山町に支場庁舎敷地として国有林の所属替をうけ、同時に桃山研究室を設置
- 昭和31. 3 庁舎、研究室を新築、移転
- 昭和34. 7 関西支場と名称を改む
- 昭和40. 3 研究室等を増改築
- 昭和41. 4 部制設置（育林、保護の2部）
 - 〃 防災研究室を岡山試験地から移設
- 昭和51.11 庁舎、研究室（昭和31.3新築のもの）を改築

岡山試験地

- 昭和10. 8 岡山県上道郡高島村に水源涵養試験地として設置
- 昭和12.12 林業試験場高島試験地と名称を改む
- 昭和22. 4 林業試験場大阪支場の所管となり、同支場高島分場と名称を改む
- 昭和27. 7 林業試験場京都支場高島分場と名称を改む
- 昭和34. 7 林業試験場関西支場岡山分場と名称を改む
- 昭和41. 4 林業試験場関西支場岡山試験地と名称を改む

(2) 土地および施設

1. 土地

	関西支場	岡山試験地
庁舎敷地	60,669m ²	12,254m ² (67,897m ²)
内訳		
庁舎	11,450	(1,999)
苗木畑	13,270	4,264
樹木園	7,951	7,990
見本林, 実験林	27,998	(65,898)
宿舍敷地	9,373	915
島津試験林	7,045	—
宇治見試験林	3,812	—
計	80,899m ²	13,169m ² (67,897m ²)

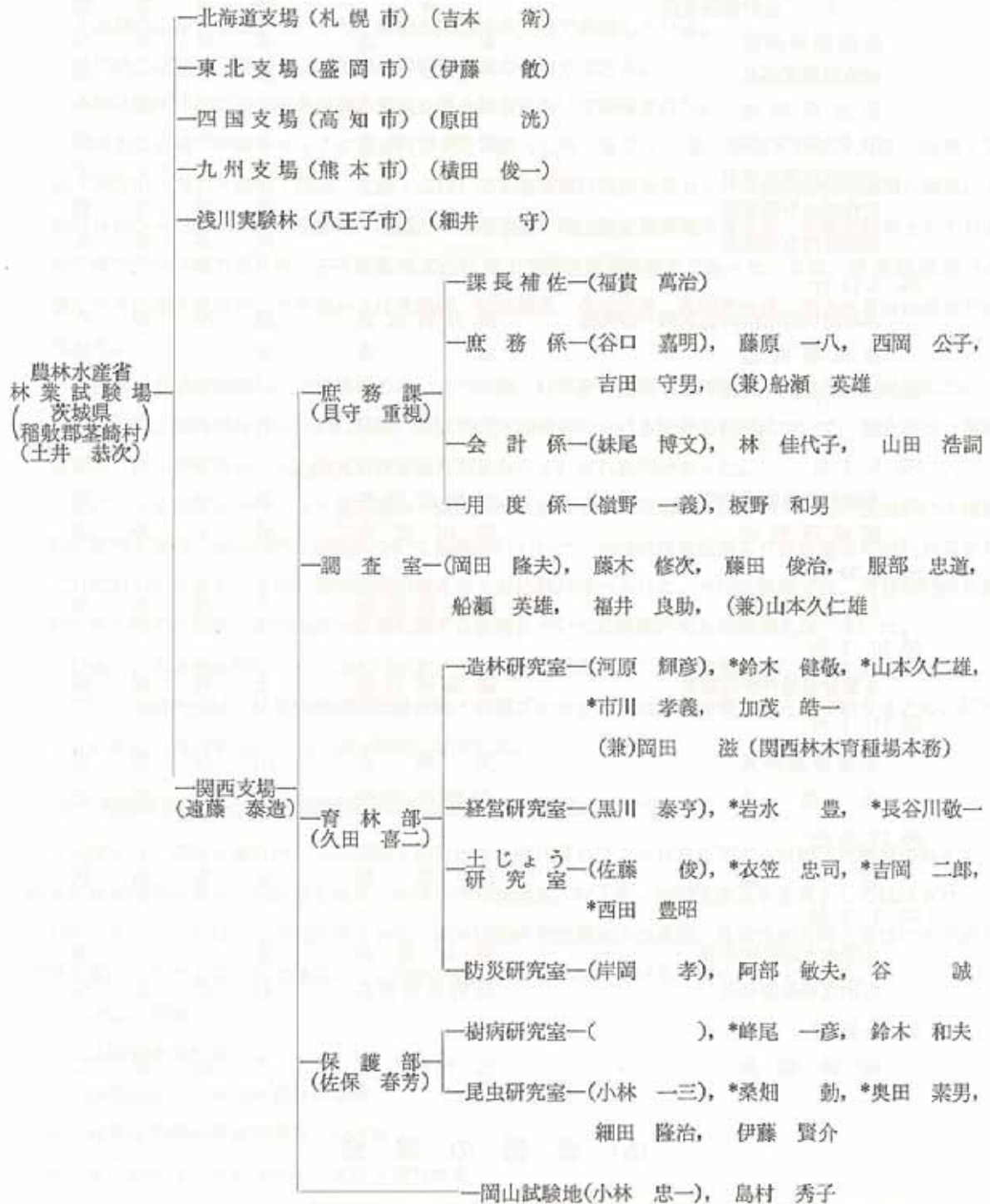
注：() は借地

2. 施設 (延べ面積)

	関西支場	岡山試験地
庁舎	5棟 2,630m ²	1棟 347m ²
内訳		
研究室(新館)	1,507	
〃 (別棟)	628	
会議室	166	
機械室	140	
試料室	189	
温室	2棟 139	—
ガラス室	1〃 61	—
隔離温室	1〃 51	—
殺菌培養室	1〃 48	—
樹病低温実験室	1〃 91	—
昆虫飼育室	1〃 105	—
林木水耕実験室	1〃 26	—
材線虫媒介昆虫実験室	1〃 41	—
研究資料調整室	1〃 64	—
人工降雨室	1〃 19	—
連絡事務所	1〃 223	—
その他	10〃 376	7棟 267
宿舍	17〃 1,698	2〃 195
計	44棟 5,572m ²	10棟 809m ²

(3) 組 織

(昭和57年3月31日現在)



注: { () はそれぞれの長
* は主任研究官

(4) 人のうごき

56. 4. 1 付	本場総務部施設管理課管理係長	庶務課	西福	野田	忠智	廣数
	// 会計課経理係	//	福	田	萬一	治義
	庶務課長補佐	本場	福	貴野	賢	介潔
	庶務課用度係長	//	嶺	藤中	公浩	子嗣
	昆虫研究室	//	伊田	岡田	典	生
	主任研究官	樹病研究室	西	杉		
	庶務課庶務係採用		山			
	庶務課会計係採用					
	庶務課用度係採用					
56. 4.18 付	本場防災部治山科理水第一研究室	防災研究室	藤枝	基	久	
	防災研究室	本場	谷		誠	
56. 5. 1 付	退職	庶務課	竹内	寿賀子		
56. 6. 1 付	北海道支場樹病研究室	樹病研究室	田中	潔		
	樹病研究室	四国支場	鈴木	和夫		
56. 6.30 付	退職	岡山試験地	大滝	光春		
56.10. 1 付	木曽分場造林研究室長	経営研究室	上野	賢爾		
56.11. 1 付	本場保護部長	支場長	山田	房男		
	支場長	北海道支場	遠藤	泰造		
56.12.28 付	退職	庶務課	杉本	典生		
57. 1. 1 付	北海道支場経営部長	育林部長	田口	豊		
	九州支場保護部長	樹病研究室長	紺谷	修治		
57. 1.16 付	育林部長	九州支場	久田	喜二		

(5) 会議の開催

(1) 昭和56年度(第9回)林業技術開発推進近畿・中国ブロック協議会

- 1) この協議会は、林業技術開発推進協議会運営要領(昭和48年6月8日付け48林野第108号、林野庁長官通達)に基づき、毎年度開催されるものである。

- 2) この協議会は協議の段階別に、中央協議会、ブロック協議会および都道府県協議会の三つの協議会からなっている。

当支場は、この区分の中の近畿・中国ブロック協議会に属している。

ブロック協議会は毎年度1回、林野庁長官が招集して開催することとなっており、関西支場長は当ブロック協議会の運営を総括し、また、会議の庶務は当支場で処理している。

- 3) 56年度の近畿・中国ブロック協議会の概要は次のとおりである。

会議は56年10月27日、林業試験場関西支場会議室において開催された。

出席者は近畿・中国ブロックに含まれる2府12県（石川・福井・三重・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・鳥取・島根・岡山・広島・山口）の林務部局行政担当者および林業試験指導機関の職員、大阪営林局から技術開発担当企画官、関西林木育種場長、同山陰支場育種研究室長、学識経験者として京都大学農学部赤井龍男助教授、王子製紙株式会社 亀山育種場長柴田勝氏であった。なお、林業試験場（本場）からは調査部長が、当支場からは支場長、育林部長、保護部長、各研究室長、調査室長ほか係官が出席した。

会議は、本場調査部長、当支場長のあいさつの後、昨年度の会議で各府県から提出された課題についての経過報告が調査部長から行われ、続いて試験研究機関等における研究の動向について、調査部長、関西支場長、林木育種場長、同山陰支場育種研究室長からそれぞれ説明があった。

次に、当支場長の司会により各府県から提案された造林部門5課題、保護部門4課題、特産部門1課題、防災部門1課題、機械部門2課題について協議が行われた。協議は提案機関より提案趣旨の説明がなされ、これに対して出席者の意見、国の機関の考え方・対応等が述べられた。今回の協議では、造林部門の良質材生産に関する技術と積雪地帯の施業に関する技術についての課題が大きな問題となっていた。

最後に、本場調査部長より「昭和57年度メニュー候補課題」についての説明がなされた。

なお、協議内容は「林業技術開発推進近畿・中国ブロック協議会議事録要旨」として取りまとめ、57年1月林野庁へ提出するとともに関係機関へ配付した。

(2) 関西地区林業試験研究機関連絡協議会とその研究活動について

本協議会は、関西支場管内および四国支場管内の2府16県の公立の林業に関する試験研究機関の長および林業試験場関西支場長、同四国支場長、関西林木育種場長、同山陰・四国支場長を会員として構成され、その目的とするところは、この地区内における林業試験研究機関相互の連携、林業技術の向上並びにその普及、発達を図ることである。本協議会はこの目的を達成するため次に掲げる事業を行なっている。

1. 総会の開催
2. 共同研究の推進
3. 研修会および研究発表会の開催
4. 林業技術開発推進協議会との連絡
5. その他本会の目的達成のために必要な事業

以上のうち、56年度は下記の事業が行われた。

1) 第33回総会

昭和56年10月8日、林業試験場関西支場会議室において開催された。

会議は当支場長のあいさつの後、新会員の紹介がなされ続いて報告と協議が行われた。

報告は、当支場長から最近の情勢報告および情報交換、第17回 IUFRO 世界大会について報告と協力に対する謝意が述べられ、次に奈良県林業試験場長より、全林試協の動向について報告がなされた。

協議は、連絡協議会内に設置されている各部会の部会長から、過去1年間の共同研究の経過と成果および今後の計画について報告があり、協議が行われた。

最後に、連絡協議会総会の前年度の決算報告と次期開催地および当番機関の決定などが行われた。

2) 各部会活動の状況

当協議会には九つの部会があり、共同研究を行なっている。部会活動には当支場研究員も参加し、共同研究の実施、研究情報の交換および助言などを行い、公立研究機関とは研究上の緊密な連絡をとっている。

なお、林野庁研究普及課および林試本場からは可能なかぎり担当係官の出席を願っており、大阪・高知両営林局あるいは管外の公立林試が参加している部会もある。

56年度中に行われた部会の開催は次のとおりである。

部 会 名 (共同研究班)	開 催 年 月 日	開 催 場 所	当 番 機 関
林 業 機 械	56. 8. 21 ~ 22	新 宮 町	兵 庫 林 試
特 産 (シイタケ)	56. 9. 29 ~ 30	(兵庫 山 中 町	石 川 林 試
育 苗	56. 9. 29 ~ 30	(石川 山 口 市	山 口 ・ セ ン タ ー
特 産 (マツタケ)	56.10.21 ~ 23	亀 岡 市	京 都 林 試
経 営	56.11. 5 ~ 6	白 浜 町	和歌山・センター
樹 木 保 全	56.11. 5 ~ 6	(和歌山 徳 島 市	徳 島 ・ セ ン タ ー
立 地	56.11.26 ~ 27	丸 岡 町	福 井 ・ セ ン タ ー
育 林	56.12.15 ~ 16	(福井 三 次 市	広 島 林 試
育 種	57. 1. 13	白 山 町	三 重 ・ セ ン タ ー
特 産 (ク リ)	57. 1.28 ~ 29	(三重 勝 央 町	岡 山 林 試
保 護	57. 2. 4 ~ 5	(岡山 芦 原 町	福 井 ・ セ ン タ ー
		(石川 県)	

(3) 業務報告会の開催について

昭和55年度業務報告会は56年5月11日・12日の両日当支場会議室において開催され、各研究室・試験地より報告が行われた。

(4) ユフロ第17回世界大会

ユフロ第17回世界大会は、56年9月7日から12日まで、京都市左京区宝池にある国立京都国際会館で開催され、引き続き13日から17日まで14のコースに分かれて日本各地の林業、林産業の紹介と現地検討会が行われた。

「明日の森林は今日の研究から」をテーマに73か国から1,562人の研究者たちが出席した。1976年の第16回オスロ大会（ノルウェー）において日本開催が決定されて以来、林業試験場内に設けられた「ユフロ組織委員会」が中心となって準備をすすめ、各界の積極的な支援・協力のもとに、大会は盛会裡に滞りなく終了した。

関西支場は、この大会の開催地に所在する関係から、京都市において開催決定以来、組織委員会事務局内に組織された「京都地区連絡会」および運営委員会の総務部会内に組織された京都社交班のメンバーとしてその中核的役割を果たした。

大会における研究発表は分科会とポスターセッションに分けて行われた。分科会は133会場に分れて専門分野別に584編の研究発表が行われた。その内訳は、招待論文数315、任意提出論文数269であった。またポスターセッションは今大会より導入された試みで、研究成果を図表等で掲示し、発表者と参加者が個別的に討議する発表形式であって、発表数は245であった。この研究発表にも関西支場は積極的に参加した。

支場職員による研究発表は次表のとおりである。

招 待 論 文

氏 名	大 会 区 分, 研 究 班 名	論 文 名
小 林 一 三	昆 虫 球果・種子の害虫	日本産針葉樹に寄生する球果・種子害虫
佐 保 春 芳	産地・育種・遺伝 五葉松造林の将来性	銹菌以外の五葉松の病害
〃	病害及び大気汚染 松の銹病	五葉松直接感染型銹菌 <i>Periderium yamabense</i>
田 中 潔	病害及び大気汚染 大気汚染に関する日本の研究活動	日本における樹木の大気汚染効果の野外調査

ポスターセッション

氏 名	論 文 名
河 原 輝 彦, (金沢洋一), (桜井尚武)	フィリピン人工林の初期生産量と現存量
小 林 一 三 (K. D. Singh)	フトバガキ科樹木の種子生産に対する虫とリスの影響
黒 川 泰 亨	不確実下の森林計画
佐 保 春 芳	何故二葉松は五葉松直接感染型銹菌に対し免疫性か?
田 口 豊, 河 原 輝 彦, 加 茂 皓 一	北山林業における『シボ』の育種と利用
田 中 潔, 紺谷修治, 峰尾一彦, (赤井重恭)	トウカエデのウドンコ病
田 中 潔	<i>Taphrina wiesneri</i> によるサクラの天狗巣病
谷 誠, (小橋 澄治), (武居 有恒)	山地溪流よりの土砂流出量のシミュレーション
鈴 木 和 夫	春・夏期接種後のザイセンチュウ病の病徴の進展

注: () は関西支場職員以外の氏名

(6) 受託研究等調査・指導

用 務	委 託 者	用 務 先	実施期日	出 張 者	
				研 究 室	氏 名
重要水源山地整備治山事業調査の現地指導	林業土木コンサル タンツ大阪支所	大阪府岬 町	56. 5. 21 ～ 5. 23 ～ 5. 22	土じょう 〃	佐藤 俊 吉岡 二郎
〃	〃	鳥取県関 金町	56. 7. 20 ～ 7. 22	〃 〃	佐藤 俊 吉岡 二郎
昭和56年度林業改良指導員一般研修 講師	岐阜県林政部長	岐阜県萩 原町	56. 8. 3 ～ 8. 4	経 営	岩水 豊
昭和56年度奈良県林業改良普及協 会、奈良県林業研究グループ連絡協 議会合同総会の記念講演講師	奈良県林業改良普 及協会会長	奈良県高 取町	56. 8. 25	〃	〃
保全計画調査	水利科学研究所理 事長	広島県江 田島町	56. 9. 30 ～ 10. 2	土じょう 〃	佐藤 俊 吉岡 二郎
和歌山県中辺路町の山村振興調査	全国農業構造改善 協会会長	和歌山県 中辺路町	56. 11. 9 ～ 11. 11	経 営	黒川 泰亨
マツノマダラカミキリ駆除薬剤試験	林 業 薬 剤 協 会	岡 山 市	56. 11. 17 ～ 11. 18	昆 虫	奥田 素男
昭和56年度林業航空(松くい虫防除) 技術研修会講師	農林水産航空協会 会長	高 松 市	56. 11. 17 ～ 11. 19	〃	小林 一三
民有林人工林収獲予想表および林分 材積表作成調査の現地指導	日本林業技術協会 理事長	兵庫県山 崎町	56. 11. 26 ～ 11. 27	経 営	長谷川敬一
森林系エネルギーに関する調査	日本住宅・木材技 術センター理事長	奈良県都 祁村	56. 11. 30 ～ 12. 1	〃	黒川 泰亨
民有林人工林収獲予想表および林分 材積表作成調査の現地指導	日本林業技術協会 理事長	大 阪 市	56. 12. 1	〃	長谷川敬一
林分密度管理図および間伐指針表の 作成	〃	金 沢 市	56. 12. 3	〃	〃
〃	〃	滋賀県近 江八幡市	56. 12. 8	〃	〃
〃	〃	〃	56. 12. 9	〃	〃
〃	〃	〃	56. 12. 10	〃	〃
民有林人工林収獲予想表および林分 材積表作成調査の現地指導	〃	大 阪 市	56. 12. 16	〃	〃
西南濃県事務所管内林業研究グルー プ研修講師	岐阜県林政部長	岐阜県関 ヶ原町	57. 3. 26	〃	岩水 豊

(7) 当 場 職 員 研 修

氏 名	研 修 先	研 修 期 間	研 修 内 容
西 岡 公 子	大阪府職業訓練センター	56. 4. 7 ~ 4. 10	昭和56年度近畿地区(第1回)新採用職員研修
山 田 浩 詞	〃	〃	〃
杉 本 典 生	〃	〃	〃
谷 誠	林業試験場関西支場・外	56. 5. 6 ~ 57. 3. 23	昭和56年度新規採用研究員研修
藤 原 一 八	大阪合同庁舎第2号館	56. 6. 9 ~ 6. 19	第18回近畿地区中堅係員研修
田 口 豊	鎌倉保養所若宮荘	56. 11. 25 ~ 11. 27	昭和56年度試験研究機関研究管理者セミナー
嶺 野 一 義	大阪合同庁舎第2号館	57. 1. 19 ~ 2. 5	第18回近畿地区係長研修

(8) 技 術 研 修 受 入 れ

氏 名	所 属 機 関	研 修 期 間	研 修 内 容
石 井 秀 之	大分県林業試験場	56. 6. 1 ~ 7. 31	竹の生理生態について

(9) 海 外 出 張

氏 名	出 張 先	出 張 期 間	研 究 課 題
鈴 木 健 敬	フィリピン	56. 1. 21 ~ 58. 1. 19	フタバガキ科樹種の更新ならびに竹の造林に関する研究

(10) 見 学 者

(56.4.1~57.3.31)

		計	内 訳						備 考
			国	府 県	大 学	そ の 他 校	林業団体	一 般	
国	件数	154	71	48	6	1	16	12	
内	人数	618	145	213	111	2	91	56	
国	件数	14	アメリカ (3), オーストラリア (1), オーストリア (1), カナダ (1), 韓国 (7), 台湾 (38), 中国 (6), フランス (1), ポーランド (1)						()は人数
外	人数	59							
合	件数	168							
計	人数	677							